

## ハルカミライ

等身大の熱血バンドの目標は「音楽で家族を養っていくこと！」

熱いライブパフォーマンスが話題を呼び、現在開催中の【天国と地獄ツアー】は28公演すべてソールドアウト。1月にはファーストフルアルバム『永遠の花』を発売、2月には主題歌と挿入歌を担当した映画【凧 -りん-】(又吉直樹原作。佐野勇斗、本郷奏多主演)も公開されるなど、ますます活動の幅を広げているハルカミライ。ツアーで移動中の彼らをつかまえて(!?)、結成の話から未来への展望まで、幅広い質問をぶつけてみた。



— 結成は2012年。きっかけは何だったんですか？

橋本学 (Vo)「専門学校で僕と(須藤)俊が同じクラスになったんです。それまで僕はバンドはやってたことがなかったけど、ギターを弾いたり歌を歌うことは好きで。ずっと曲も書き溜めてて、それを聴かせて一緒にやることになりました」。

須藤俊 (Ba & Cho)「当時僕は別でバンドをやっていたんですけど、曲を聴いたらビビッときて。あれは運命的な出会いでしたね。そこから1年後に小松(謙太)が入って、さらに2年後に(関)大地が入って今の体制になりました」。

関大地 (Gt & Cho)「僕はハルカミライに入る前からライブは観てました。当時は歌ものから青春パンクに変わってきた頃だったんです」。

— 途中で音楽性が変化したんですか？

橋本「結成当時から歌の内容は変わってないけど、スタイルとか見せ方は変わってきたかも。最初は僕が弾き語りで作るやり方だったけど、今は俊が編曲担当。彼が楽器側を全部作り上げた上に僕がメロディと歌詞を乗せる作り方をしています。あと聴いている音楽が変わりました。僕、俊に会ってなかったら青春パンクは聴いてなかったと思うんです。それまで歌謡曲やJ-POPで育ってきて、俊に会ってから銀杏BOYZやブルーハーツにハマりました」。

須藤「逆に僕は学の影響で森山直太朗とか聴くようになりました」。

橋本「そのあたりがうまく混ざってくれたというか。2人ともその時期に聴いている音楽の影響が露骨に出るけど、どちらもまとめない性格で(笑)。俊は俊のやりたいことをやって、僕は僕のやりたいことをやって——それが混ざり合ってハルカミライの音楽になってると思うんです」。

須藤「よく他の人から『ブルーハーツと最近の音楽が混ざった感じだね』って言われて。それもイヤな気はしないですよ」。

— ハルカミライはライブを重視していますが、ライブへのこだわりはありますか？

須藤「音楽が青春パンク風になってからはずっと

シンガロンクがありますね。当時はこれが自分たちの武器になると思ってなくて。ただみんなで歌ったら気持ちよくて(笑)。周囲からも『シンガロンクいいね』って言われるようになったので、今は意識してそういう曲を作るようになりました。橋本「ライブでお客さんを含め、みんなでめっちゃデカい声を出して歌うとめっちゃ感動するんです。ひとりのめっちゃ上手い人が歌うのも歌の力だけど、全員が爆発するように歌ってる歌は身体が震えるくらいすごいんです」。

小松謙太 (Dr & Cho)「だからライブでは常にすべて出し切るようにしていますね。出し切れなかったら悔しい気持ちになりますよ」。

— 1月にはファーストアルバム『永遠の花』をリリース。どんな作品になりましたか？

橋本「出たのは2カ月前ですけど、もう遠い昔のことみたいに思えます。今は早く次の作品を出したい気持ちの方が強いです」。

須藤「ライブを意識して作った曲が多いですね。だから今のツアーで演奏しても初めてやる気がしないというか。やりづらい曲は全部ボツにして、僕らが気持ちよく演奏できる曲を優先しました」。

— 収録曲の『QUATTRO YOUTH』にはアルバムタイトルの『永遠の花』という言葉が入ったり、〈忘れてたあの時の初めての衝動〉という歌詞があったり。初期衝動としてのロックへの想いがあふれています。

橋本「常に初期衝動を意識しながら音楽をやっているわけじゃないけど、僕らには立ち返れる原点があるというか。行き詰まったときや悩んだときに帰れる場所があることは大きいと思うんです。これまでたくさんのライブを観て、『ライブってこんなことしていいんだ!』って驚かされることも多々あって。そうやって受けてきた経験を踏まえ、今度は僕らがやる側として、どこまで行けるかトライしているところです」。

須藤「学に『永遠の花』って言葉を入れて歌詞を書いてってお願いしたのは僕なんです。この言葉をアルバムのタイトルにしたくて。まわりを見るとみんな現実ばかり歌ってる気がして。そうい

うものに反旗を翻す意味でも『永遠』という言葉を入れたかったんです」。

— 昨年出演予定だった【WILD BUNCH FEST.】は台風で中止。今年出演が決まっていますが、どんな想いがありますか？

橋本「僕、山口市が地元なんで、すごい気合入ってたんです! 『これで友達にも自慢できる!』って胸張って帰ってきて、フェス初日も観に行っただけで『ここが明日僕らがやるステージか。楽しみだな』ってステージの様子まで確認したんだけど、残念ながら中止……だから『今年こそ!』って気持ちは強いですよ」。

— 最後にみなさんの夢や野望を教えてください。

小松「個人としてはみんながやりやすいドラムを叩くこと。バンドとしては……このままついていくだけです(笑)」。

関「個人としてはプレイヤーとして成長したいですね。ハルカミライとしては……ついていきます!(笑)」。

須藤「最終的にはバンドとしても個人としても、自分の家族を養っていけるバンドになりたいんです。そこにすべてが詰まってるというか。いい曲を書き続けたり、フェスに出続けたりしないとバンドで食べてはいけませんからね」。

橋本「この前、みんなで話し合っただけで『バンドの目標は家族を養うこと』に決めました。音楽で暮らしていく。親にも恩返しできるように、これからもっといいものを作っていきたいです!」

1st Full Album

『永遠の花』  
out now!!



REDLINE TOUR 2019 ~FOUR FISTS~

6月5日(水) 岡山 CRAZY MAMA 2nd Room  
(act) ハルカミライ / bacho /  
THE FOREVER YOUNG / KOTORI

WILD BUNCH FEST. 2019 出演決定!

8月25日(日) 山口きらら博記念公園